

【 種・教養 例題 1 】

近年の日本の農業に関する次の記述ア～オのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 農業就業人口は減少しているが、法人経営体に雇用される新規就農者は若い世代が多いことから、農業就業人口全体に占める65歳以上の者の割合は約3割になった。
- イ. 効率的な農業経営のために農地の集積・集約化が進められており、この取組の障害となっていた農地中間管理機構（農地バンク）は廃止された。
- ウ. 地域ごとに農業産出額を米，野菜，畜産，その他に分けてその割合を見ると、北海道地方や九州・沖縄地方は畜産の割合が最も大きく、北陸地方は米の割合が最も大きい。
- エ. シカやイノシシなど野生鳥獣による農作物の被害は農山村に深刻な影響を及ぼしている。政府は、その対策として捕獲された動物について、ジビエとして有効活用するための取組を進めている。
- オ. 世界的に日本食が人気となっているが、日本の農産物は価格競争力で劣るために、農産物の輸出額は減少傾向にある。特に日本酒などの加工食品やいちご，りんごなどの青果物の減少が著しい。

- 1. ア，イ
- 2. ア，オ
- 3. イ，エ
- 4. ウ，エ
- 5. ウ，オ

【 種・教養 例題 2 】

平安時代末期から鎌倉時代までの日本に関する次の記述ア～オのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 平安時代末期，武士の政治的地位が高まり平氏が政権を握った。平清盛は，朝廷の権威を認めず，朝廷が清盛に太政大臣の官位を与えようとした際もこれを拒絶した。
- イ. 源頼朝が平氏打倒を掲げて挙兵し，戦乱の結果，平氏は滅亡した。源頼朝は朝廷から守護や地頭を任命する権利を獲得し，また，征夷大將軍に任ぜられた。
- ウ. 鎌倉時代初期，後鳥羽上皇が幕府の執権であった北条氏打倒の兵を挙げた。大多数の東国武士が上皇に同調し，北条氏は戦いに敗れて滅亡した。
- エ. 元の軍が二度，日本に襲来した。幕府は元の軍を退けたが，多大な犠牲を払った御家人に対し十分な恩賞を与えることができなかった。
- オ. 鎌倉時代末期，足利高氏（尊氏）が討幕を掲げて挙兵した。これに対し，後醍醐天皇は鎌倉幕府を支持したが，最終的に鎌倉幕府は敗れ滅亡した。

- 1. ア，エ
- 2. ア，オ
- 3. イ，ウ
- 4. イ，エ
- 5. ウ，オ